



2018年8月15日

## カトリック医師会 東京支部公開講座のご案内

カトリック医師会東京支部  
支部長 小林 誠

### ✦主の平和

暑い日が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。今年も早いもので3分の2が過ぎようとしています。カトリック医師会東京支部では、毎月例会を開催し、医療・福祉などの課題を学んでいます。来年3月までの例会のご案内をお送りいたします。これらの課題を会員だけでなく、他職種やカトリック以外の方とも考えていきたいと思い、公開講座としてみました。同僚、お知り合いにも宣伝いただければ幸いです。また学びたい課題、招きたい講師などがございましたら、支部長か支部事務局までご連絡下さい。

支部長メールアドレス:jcma2017@yahoo.co.jp 事務局メールアドレス:shiina341237@nifty.com

### ◆カトリック医師会東京支部 公開講座

#### 【2018年】

日時	場所	講師	タイトル・テーマ
9月8日(土) 14:00-16:00	上智大学 2号館505	高山貞美 司祭 上智社会福祉専門学校校長	愛とケアの人間学的講話～キリスト教福祉論の立場から
11月11日(日) 15:00-16:30	ニコラバレ 105号室	小堀鷗一郎 医師 堀ノ内病院 地域医療センター	死を生きる
12月16日(日) 15:00-16:00	ニコラバレ 103号室	神田珠莉 医学生 千葉大学医学部医学科6年	医学教育について -医学生の立場から-

#### 【2019年】

日時	場所	講師	タイトル・テーマ
1月20日(日) 16:00-17:15	岐部ホール 404号室	橘ジュン ルポライター NPO 法人 BOND プロジェクト代表	若年女性を取り巻く現状～SNSに潜む危険～
2月17日(日) 15:00-16:00	ニコラバレ 103号室	武井弥生 医師 上智大学総合人間科学部准教授	女性の自然な周期を観察し、自然に備わった力を大切に

### ◆その他 一般財団法人 真生会館 土曜講座 ※カトリック医師会東京支部の例会ではありません。

日時	場所	講師	タイトル・テーマ
10月27日(土) 13:30-15:30	真生会館	小林 誠 医師 法務省 少年院職員	少年達と関わって～少年院の現場から～

※詳細は真生会館ホームページ <http://www.catholic-shinseikaikan.or.jp/courses>

## カトリック医師会東京支部 公開講座

- ◆ 2018年9月8日(土) 14:00-16:00 上智大学 四谷キャンパス内 2号館 505 教室
- ◆ 講師: 高山 貞美(たかやま さだみ)神父 上智社会福祉専門学校校長、上智大学神学部教授
- ◆ タイトル: 愛とケアの人間学的講話～キリスト教福祉論の立場から
- ◆ 講演要旨:

私たちはなぜ福祉や医療という、人を治療し、ケアすることをなりわいとするのでしょうか。人のことに一生懸命になるのは自分の自己実現とは直接関係しないのに、医師もソーシャルワーカーもそういう生き方を選んだ者として生きています。人を支援する根底にアガペ(無限の愛)ともいべき友愛があり、それは普段意識されることなく、私たちは活動しています。「あなたに関心があります」「あなたに生きてほしい」「あなたを信じています」「どうか私たちをうまく使って」私たちは患者・クライアントにそう言って、寄り添う日々を過ごしていますが、そこにはどのようなスピリット・人間の形があるのでしょうか。

上智大学キリスト教人間学を教えておられる高山先生に、私たちの実践の根源に在るものを宗教学的立場からお話しいただき、治療者・援助者というものの所在を考える機会としたいと思います。

- ◆ 参加費: ¥1,000 ◆ 申し込み: 不要
- ◆ 上智社会福祉専門学校 精神保健福祉士通信課程(短期)卒後学習会 wa-sophia との合同開催です。
- ◆ 終了後、講師を交えて懇親会(居酒屋¥3,000 程度)を予定しています。懇親会参加希望者は東京支部事務局まで申し込みして下さい(携帯: 090-5418-3949、メール: shiina341237@nifty.com)。

### 講師プロフィール:

上智社会福祉専門学校校長、上智大学神学部教授、聖心(みこころ)布教会司祭。  
グレゴリアン大学(イタリア)博士(神学)修了(Ph.D.Theology)。実践宗教学、宗教間対話の精神に基づいた「パウロと親鸞」の比較研究が研究テーマ。キリスト教人間学・愛とケアの思想史などの授業を大学などで担当。

## カトリック医師会東京支部 公開講座

- ◆ 2018年11月11日(日) 15:00-16:30 ニコラ・バレ修道院 105号室(四ツ谷駅徒歩1分)
- ◆ 講師: 小堀 鷗一郎(こぼり おういちろう) 医師、堀ノ内病院 地域医療センター(埼玉県新座市)
- ◆ タイトル: 死を生きる
- ◆ 講演要旨:

在宅診療医として355人を看取り、そのうち271人は在宅での看取りだった。その経験から、日本の医療界、さらには国民の死に対する意識に問題があることを痛感し、今後の終末期医療の在り方を考える。

- ◆ 参加費: ¥1,000 ◆ 申し込み: 不要

### 講師プロフィール:

1938年、東京生れ。東京大学医学部卒業。医学博士。東京大学附属病院第一外科・国立国際医療研究センターに外科医として約40年勤務。定年退職後、埼玉県新座市の堀ノ内病院に赴任、在宅診療に携わり、355人の看取りにかかわる。うち271人が在宅看取り。  
著書:『死を生きた人びと 訪問診療医と355人の患者』(2018/5/1、みすず書房)。

## カトリック医師会東京支部 公開講座

◆ 2018年12月16日(日) 15:00-16:00 ニコラ・パレ 103号室(四ツ谷駅徒歩1分)

◆ 講師: 神田珠莉(かんだじゅり) 千葉大学医学部医学科6年

◆ タイトル: 医学教育について -医学生の立場から-

◆ 講演要旨:

日本の医学教育は今「2023年問題」に直面しているという。すなわち、2023年以降、米国の医師国家試験受験資格は、米国医科大学協会または世界医学教育連盟(WFME)の基準による認証を受けている医学部の卒業生に限られるため、日本の大学もWFMEの認証を受けるため医学教育を見直しているというのだ。こうした国際化の動きに加え、専門医制度への対応などを背景に国全体でも2018年度から新たなモデル・コア・カリキュラムが導入され、今年、医学生の医行為の改訂と共用試験(CBT)の義務化が確定されようとしている。情けないことに、6年間医学部にいながら、私は目の前の課題や自分の卒後の進路について考えるのに必死で、自分が今受けている教育の抱える課題について、不安はあれど、真剣に、具体的に考えて来なかったように思う。しかし、自分がどんな教育を受け、今後どのような教育へ変わろうとしているのかを知ることは、国際化の進む世界の中で自分の医師としてのキャリアパスを考えるうえで、不可欠なことかもしれない。さらに、医学部を卒業する立場にあっても、これから医学教育を受ける学生たちに近い立場として、医学教育に対する意見を持つことは今後の医学教育の発展のために大切なことかもしれない。卒業の前に一度立ち返って、医学教育の変遷について学び、6年間を振り返り、自分の将来の夢や葛藤と照らし合わせ、現在と今後の医学教育に関して医学生としての意見を述べたい。

◆ 参加費: ¥1,000 ◆ 申し込み: 必要 支部事務局(携帯: 090-5418-3949, メール: shiina341237@nifty.com)

講師プロフィール:

平成6年生まれ。平成25年桜蔭高等学校卒業。平成25年千葉大学医学部入学。平成31年同卒業見込み。

## カトリック医師会東京支部 公開講座

◆ 2019年1月20日(日) 16:00-17:15 岐部ホール 404号室(イグナチオ教会敷地内)

◆ 講師: 橘 ジュン (たちばな じゅん) ルポライター、NPO 法人 BOND プロジェクト代表

◆ タイトル: 若年女性を取り巻く現状～SNSに潜む危険～

◆ 講演要旨:

NPO 法人 BOND プロジェクトは、虐待、性暴力、望まない妊娠・出産、非行、依存症、自傷行為、ひきこもりなど『生きづらさ』を抱えた少女たちの声を聞き、彼女たちの悩みや問題、被害に応じて専門機関との連携、行政への同行支援、緊急時の一時的な保護なども実施しています。その一方で、支援を受けなければいけない子ほど私たちに繋がらず、家出、失踪、そして性被害などを受けるケースも多いのが実態です。警視庁によると平成29年1年間の10代20代の失踪者数は3.3万人でした。平成29年10月の神奈川県座間市で起きた9人の殺人・死体遺棄事件では、犯人は被害者たちとツイッターというSNSで知り合っていました。そのような危険な状況に至る前に彼女たちと出会うためネットパトロールも実施しています。また講演では、森司教との出会いやカトリックとの出会いについてもお話します。

◆ 参加費: 1,000円 ◆ 申し込み: 不要

◆ 公開講座終了後、講師を交えて懇親会(4,000円)を予定しています。参加希望者は東京支部事務局に申し込みして下さい(携帯: 090-5418-3949、メール: shiina341237@nifty.com)

講師プロフィール:

2006年、パートナーのカメラマン KEN と共に、街頭の女の子の声を伝えるフリーマガジン VOICES を創刊。これまで少女たちを中心に3,000人以上に声をかけ、聴いて、伝えつづけてきた。2009年、NPO 法人 BOND プロジェクトを設立。虐待、家出、貧困など様々な困難を一人で抱えてしまう女の子に寄りそう「聴く、伝える、繋ぐ」を活動中。著書に『漂流少女～夜の街に居場所を求めて～』(太郎次郎社エディタス)、『VOICES～キミの声を伝える～』(グラフ社)、『最下層女子高生～無関心社会の罪～』(小学館新書)がある。街や SNS などで居場所を求めて彷徨う女の子たちの SOS に耳を傾けている。

## カトリック医師会東京支部 公開講座

◆ 2019年2月17日(日) 15:00-16:00 ニコラ・バレ 103号室(四ツ谷駅徒歩1分)

◆ 講師: 武井弥生 (たけいやよい) 上智大学総合人間科学部 看護学科 准教授、医師

◆ タイトル: 女性の自然な周期を観察し、自然に備わった力を大切に

◆ 講演要旨:

女性にはもともと自然に備わった、命をはぐくむ神秘的な力がある。クレイトン法では月経周期の特徴を教え、その観察を継続することにより、自然な体の変化を実感できるようになる。そして、排卵の有無、性器出血の原因の予測、月経周期の変化とそれに影響を及ぼす要素の推測などができるようになる。未婚の女性は婦人科的健康状態を把握することができ、既婚の女性はさらに、妊娠可能な時期とそうでない時期を理解して、家族計画に役立てることができる。薬剤も器具も使わない自然家族計画で、安全でお金がかからず、バチカンが推奨する唯一の避妊法である。避妊には妊娠可能日の禁欲が必要なため、男女の円滑なコミュニケーションが必要である。興味本位の情報が氾濫している昨今、正しい知識により、生命、異性への畏敬の念を若い時期に身に着けることが期待できる。赤ちゃんポスト設立後に、養子縁組あっせん法案(2016)が成立されており、かつてカトリック司祭、シスター助産師らが推奨した自然家族計画法を今見返してみたい。

◆ 参加費: ¥1,000 ◆ 申し込み: 不要

講師プロフィール:

北海道大学医学部卒。東京女子医大 内科研修。エチオピアでの診療後、産婦人科医として東チモール国立病院、タンザニア難民キャンプ等で勤務。2011年上智大看護学科国際看護を担当、現在に至る。2009年米国オマハの教皇パウロ研究所で Creighton Fertility Care System を学び、現在 Fertility Awareness を指導している。